

癌化学療法輸液約束処方 急性リンパ性白血病

癌種 急性リンパ性白血病 削除予定

レジメン名 JALSG ALL(25才以上) Induction

薬品名(商品名)	一般名	略号	標準投与量	投与経路	投与時間	投与日	1クール期間
エンドキサン	シクロfosファミド	CPA	1200 mg/m ²	div	3 hr	DAY 1	約30日間
ダウノマイシン	ダウノルビシン	DNR	60 mg/m ²	div	1 hr	DAY 1,2,3	
オンコビン	ビンクリスチン	VCR	1.3 mg/m ²	div	全開	DAY 1,8,15,22	
ロイナーゼ	L-アスパラギナーゼ	L-ASP	3000 IU/m ²	div	2 hr	DAY 9,11,13,16,18,20	
プレドニン	プレドニゾロン	PSL	60 mg/m ²	p.o		DAY 1-21	

【DAY 1】Div

- ① ソルデム3A 500 ml + 7% メイロン20ml / 2 hr
- ② NS 50 ml + セロトーン 1A / 全開
- ③ NS 500 ml + エンドキサン mg / 3 hr
- 【側管】③と同時投与 ① NS 100 ml + ウロミテキサン mg / 30 min
- ④ NS 100 ml + ダウノマイシン mg / 1 hr
- ⑤ NS 100 ml + オンコビン mg / 全開
- 【側管】⑤と同時投与 ② NS 100 ml + ウロミテキサン mg / 30 min
- ⑥ ソルデム3A 500 ml + 7% メイロン20ml / 2 hr
- ⑦ ソルデム3A 500 ml + 7% メイロン20ml / 3 hr
- ⑧ NS 100 ml + ウロミテキサン mg / 30 min
- ⑨ NS 50 ml / 全開

<減量規定:60~65才>

エンドキサン:800mg/m², ダウノマイシン:30mg/m², オンコビンは同量、
プレドニンはDAY 7 まで。

< 備考 >

- ①ロイナーゼはDAY9で皮内反応checkし、15~30分異常がないことを確認。
- 【方法】5000K.U/1Vを蒸留水2mlで溶解後、生食で全量5mlとする。このうち0.1mlを採取し生食で全量1mlとした後、0.1mlを皮内テストに使用する。
- ②ロイナーゼは投与直前に溶解。必ず注射用水で溶解後、5%ブドウ糖で希釈する。(3時間残存率:97%、)
- ③T-BiL>2 の場合はロイナーゼ中止。
- ④免疫抑制時のカリニ肺炎予防のため、バクタ1錠/日:隔日投与する。
- ⑤エンドキサン調製時はファシール使用のこと。
- ⑥凝固系(フィブリノーゲン、プラスミノーゲン、ATⅢなど)チェック、脳出血、脳梗塞、肺出血など凝固異常に注意。
- ⑦急性膵炎、糖尿病、高アンモニア血症などに注意。
- ⑧1日尿量3L以上を保つため、飲水1L以上必要。

【DAY 2,3】Div

- ① ソルデム3A 500 ml + 7% メイロン20ml / 2 hr
- ② NS 50 ml + セロトーン 1A / 全開
- ③ NS 100 ml + ダウノマイシン mg / 1 hr
- ④ソルデム3A 500 ml + 7% メイロン20ml / 2 hr
- ⑤ソルデム3A 500 ml + 7% メイロン20ml / 3 hr
- ⑥ NS 50 ml / 全開

【DAY 8,15,22】Div

- ① NS 50 ml / 全開
- ② NS 100 ml + オンコビン mg / 全開
- ③ NS 50 ml / 全開

【DAY 9,11,13,16,18,20】Div

- ① NS 50 ml / 全開
- ④ 5%Tz 500 ml + ロイナーゼ mg / 2 hr 投与直前混注
- ③ NS 50 ml / 全開